

狀ナキヲ以テ屠殺剖檢及鏡檢ヲナセリ  
 剖檢 十一月十九日午前十時外見上著シキ異狀ナク稍々衰弱セシモノ、如シ胸  
 腹部ヲ刀割スルニ浮腫ヲ呈セス  
 鏡檢 鏡檢上脾疽桿菌ノ存在ヲ認メス依テ血液再接種ヲナス  
 血液再接種 十一月廿日午前十時卅分  
     消毒時間十五分ノモノ 鱒一頭  
     消毒時間廿分ノモノ 鱒一頭  
     消毒時間廿五分ノモノ 鱒一頭  
     合計 三頭  
 再接種後飼育スルヲ三日間(五十時間)ヲ經過スルモ生活上異狀ヲ認メス依テ十  
 一月廿二日午後三時屠殺ス  
 外見 異狀ヲ認メス  
 剖檢 浮腫液ナシ其他著シキ異狀ナシ  
 鏡檢 三頭共ニ頻回反覆鏡檢スルモ見出セス

右之實驗ニヨリ似島檢疫所ニ於ケル消毒竈ハ十五分時間ニ於テ既ニ消毒之効アル  
 モノト認定候也

明治廿八年十一月廿四日

陸軍一等軍醫 岡田國太郎  
 全 二等軍醫 野口詮太郎  
 全 三等軍醫 北島庚吉

藥物消毒科

主任 陸軍三等軍醫 小池毅  
 步兵第廿二聯隊 陸軍歩兵上等兵 山田吉充  
 步兵第廿一聯隊 全 一等卒 沖房松  
 步兵第廿二聯隊 全 全 中村與平  
 全 全 中村兼助

一藥物消毒科ノ業務ハ荷物携帶品等ノ消毒ニ熱瀛ヲ忌ムヘキモノ、消毒ヲ行ヘリ  
其物品受授ノ順序ハ熱瀛消毒品ト同シ而シ十一月以降一月十日迄ニ消毒セシ品  
目及員數ハ左表ノ如シ

消毒品目表

計	月別種類		十一月中		十二月中		一月中旬		
	郵便物	武器	被服類	手荷物	捆包	毛皮	雜貨	消毒時間	消毒藥量
一九	七	七二	一三	一〇	四	一八	九	二五	五五
七二四、五六七	一四、四一二	一三四	六七五	一二	一八四	三八、五四二、九一七	四二、二五三、四七三		

全 全 中島嘉平  
全 全 江口平五郎  
全 二等卒 天木宇吉  
常用人夫 四名

船舶消毒科

一本科ノ業務ハ船舶又ハ他ノ消毒ヲ要スル場所ニ臨ミ業務ヲ執ルガ故ニ消毒藥并  
ニ消毒器械倉庫内ノ一部ニ事務所ヲ設ケ置キ左ノ職員ヲ以テ隨時派遣ノ準備ヲ  
ナセリ

主任 陸軍三等軍醫 北島庚吉  
步兵第十二聯隊 陸軍步兵二等軍曹 中川利平次  
全 陸軍步兵上等兵 木村儀太郎  
步兵第十一聯隊 陸軍步兵一等卒 笠井末松  
全 宮田政平  
步兵第十二聯隊 全 圖子小三郎  
全 近藤亨吉  
全 越前嘉吉

備 附 器 具	實 際 使 用 セ シ 器 具
消毒用船舶	引船 小蒸汽船旭丸 壹艘 解船 貳艘
步兵第十二聯隊	陸軍歩兵一等卒 森田三吉
全	中村菊三郎
全	陸軍歩兵二等卒 丸山賢太郎
全	濱田久太郎
全	有田熊之丞
全	高田嘉一郎
步兵第廿二聯隊	鹽崎石太郎
步兵第十一聯隊	佐竹關太郎
常用人夫	二十名

シユマツバー(糸房製)	全	上
木製ポンプ	全	上
ヘーヤカツシヨンプルーム(毛箒)	全	上
棒ズリ	全	上
チヤナブルーム	全	上
如露	全	上
スコアリングプラシユ	全	上
金製フラッシュユ	全	上
柄付フラッシュユ	全	上
金製ボンプ	全	上
棕櫚サ、ラ	全	上
麻布製バケツ	全	上
ゴム付ブルーム	全	上

一船舶検査科ヨリ消毒ス可キ船舶ノ通報ヲ得ルキハ主任官ハ所用人員ヲ率ヒ消毒

藥水槽ノ備ヘアル解船ニ器具ヲ搭載シ小蒸氣船ニ引カシメ直ニ本船ニ至リ消毒  
 ス可キ部位ヲ檢シ豫メ藥液ノ消費量ヲ定メ解船ノ藥槽ヨリ「ハンドポンプ」ヲ以テ  
 本船ニ藥液ヲ送り其部位ニ依テ灌注撒布濕拭等ノ各法ニ分テ臨機之レガ處置ヲ  
 行フ全部ノ大消毒ナルルハ全員ノ半數交番ニ作業セシメ局部消毒ナルルハ下士  
 以下四名八夫六名ヲ一組トナシ作業セシム十一月以前ノ業務ハ小蒸氣ノ引船ア  
 ラサルヲ以テ碇泊ノ位置遠隔セルカ或ハ風波劇甚ナルルハ當テ多少業務ノ敏活  
 ナ欠クノ慮アリシガ本回ハ之ヲ使用セルヲ以テ頗ル駿速ナルヲ得タリ殊ニ解船  
 ニ藥槽ヲ設ケ「ハンドポンプ」ヲ附セシハ最モ著シキ便益ヲ得タリ消毒器具ノ種類  
 ハ甚タ復雜多數ナリト雖トモ實際使用スル所ノモノハ前記ノ器具ノミニテ足レ  
 リ  
 本回船舶之消毒ヲ行フタルハ局部消毒ノミニシテ四拾三隻ナリ其方法ハ前回ト  
 異ナル所ナキモ十一月以降ノ檢疫ニ在テハ病毒ノ檢査ニ一進歩ヲ致シタルモノ  
 アリ他ナシ從來ハ傳染患者アリシ船舶ノミニ消毒ヲ行ヒシガ今回ハ患者ノ有無  
 ニ關セス水質ノ檢査ヲ行ヒ虎列刺細菌ノ存スルモノ及明カニコンマ菌ヲ認メザ

ルモ水質有毒ノ疑アルモノハ消毒ヲ行ヘリ即チ水質檢査ノ成績ニ依テ消毒ヲ行  
 フタルハ水槽及ビルジ腔ノ消毒ナリ此消毒タル通常船室ノ消毒ニ比スレハ頗ル  
 困難ノ業ニシテ水槽ビルジ腔共ニ船底ニ存シ殊ニ水槽ノ如キハ造船以來曾テ掃除  
 ナ行フタルヲナク水ノ出入ハ唧筒ノ作用ニ由テ導水管ノミニ由ルモノ多シ十一  
 月廿一日佐倉丸ノ船夫ニ三名之虎列刺ヲ生シ其居室ノ消毒ヲ施シ次テ水質檢査  
 ナ行フタルニ舳部船底ニ存スル鉄製水槽ノ水ニ虎列刺細菌ノ存在ヲ認メタルヲ  
 以テ更ニ之カ消毒ヲ行ヒシニ該水槽ノ水ハ導水管ノミニ依テ出入シ船長機關長  
 ト雖トモ曾テ之レカ内部ヲ檢セシトナシト云フ之レヲ開クニ先ヅ其上部ノ石炭  
 バラストヲ取除キ次テ鍛工ノ手ニ由リ上部ノ蓋ヲ開放セサレハ内部ノ消毒ヲ行  
 フ克ハサルカ故ニ翌廿二日ニ至リ甫メテ其工事ヲ遂ケ内部ヲ檢スルヲ得タリシ  
 ガ鉄槽内部ハ七拾噸ノ水量ヲ容ル、ノ大槽ナリ而シテ槽ノ内部ハ初メセメントヲ  
 以テ塗リタルモノナルモ水質内ノ汚土ハ自然ニ蓄積シテ槽底及周圍ニ堆積シテ  
 其不潔ナル恰モ下水溝ノ溜池ニ異ナラス依テ先ツ汚土ヲ除キ石炭酸水ヲ四壁ニ  
 灌注シ棒摺リヲ以テ且ツ注キ且ツ摺リ以テ清潔ナラシムルニ至レリ之ニ消費セ

シ石炭酸ノ量二万四百五十瓦ナリ膽振丸ノ水質検査之成績ニ於テ水槽中ニ虎列刺菌ノ存在ヲ認メシヲ以テ之ガ消毒ヲ行フタルモ此ノ水槽ハ甲板上ニ存スル木製豫備水槽ナリシヲ以テ消毒ニ容易ニシテ内部モ亦タ比較的不潔ナラス

一各運漕船舶ハ一航海毎ニ新鮮ノ良水ヲ汲ミ入ルト雖モ水槽之内部ヲ檢スルハ如此不潔ヲ認ムルコトアリ航海中船体ノ動搖甚キハ又ハ水量減スルハニ當ツテ頗ル濁潤スルモノアルハ思フニ曾ツテ掃除ヲ行フタルコトナキ水槽ナルベシ又一度有毒之水ヲ注容セバ槽内ニ病菌ノ發育スルモ固ヨリ怪ムニ足ラサルナリ檢疫ノ際明告書中ニ飲料水汲入地ヲ明記セシメ其無害地ヨリ汲入タルヲ証セバ之ヲ無害トシテ進行セシムルハ尙ホ皮想ノ檢問タルヲ免レヌ例令新鮮ノ良水ヲ汲ミ入ル、トスルモ水槽ノ構造及内部ニシテ如斯ナレバ宜シク水質検査ノ成績ニ依ラスンハ全然タル病毒ノ有無ハ証シ難シ之レニ由ツテ考フルニ他ノ運送船ト雖モ船底ニ存スル「バラストタンク」又ハ容易ニ開閉シ得サル水槽ハ皆ナ同一ナランカ自今船舶衛生ノ完キヲ保タント欲セハ獨リ虎列刺流行時ノ檢疫ノミニ止マラス平素船舶試験所ノ業務ニ船体ノ検査ヲ行フト同時ニ水槽検査ヲ行ヒ且ツ船渠

ニ入り修繕ヲ行フ場合ニ在テハ必ス水槽ヲ開キ掃除ヲ行フベキ規定ヲ設クルハ航海者ノ衛生ニ於ケル急務ト云フ可シ

ビルジ腔 船底汚水溝 ノ水質検査ニ依テ虎列刺細菌ヲ認メシモノ十五隻ナリビルジ腔

ハ複底ニシテバラストタンク 船ノ復底間腔 ナルハ船底部ノ両舷側ノ長徑ニ沿テ

生管狀ヲナシ單底又ハ機關部ニ在テハ船底ノ中央ニ長徑半管ヲナシ船内上部ヨ

リ汚水流入シ唧筒ノ作用ニ由リ舷側ヨリ海中ニ噴出ス而シテ汚水溜溜ノ深淺ヲ測

定スルニ甲板上ニ開口セル管孔ビルジパイプヲ開キ圓柱ヲ紐ニ繋キテ投入シテ

其圓柱ヲ濕ホス長短ノ度ニ由テ汚水ノ多少ヲ知ルナリ是レ亦容易ニ船底ニ至リ

全溝ヲ檢スルノ難シト雖モ荷物ノ搭載アヲサルハ其上蓋ヲ開キ消毒藥ヲ注入

スルヲ得レトモ或ル船ニ由ツテハ全ク開閉スルヲ得サル構造トナレリ之レヲ消

毒スルニ先ツ汚水ヲ唧筒ニ由テ船外ニ排出シ后チ五%石炭酸水ヲビルジパイプ

若クハ船底ノ蓋ヲ開キテ注入シタルモ全腔ヲ充タス爲ニ費ス藥液ノ量ハ甚ダシ

キ多量ヲ要ス故ニ費用ノ點ヲ顧慮セハ場合ニ由テハ海水ノミニテ再三洗滌セバ

可ナルモノ、如シ然レトモ細菌ノ何レニカ殘遺スルモ保シ難キニ依リ一%石灰

乳ヲ注入スルトナセリ

自明治廿八年十一月一日 船舶消毒表  
至同廿九年一月十日

月日	區分	船名	消毒部類	消毒部積	就業人員	作業時間	消毒藥消費量
十一月二日		空知丸	中甲板隔離室	二坪	七	一五分	生石灰酸 三〇〇〇〇
全月五日		新發田丸	ビルシ溝全部、廁三ヶ所	八	二四	一〇〇	一三〇〇〇〇 一〇〇〇
全月七日		北辰丸	第三船底ビルシ溝		三	三〇	一七〇〇〇 三〇〇
全月九日		大連丸	第一下甲板、第二中甲板、全下甲板、第三中甲板、廁三ヶ所	一五	一一	一〇	五〇〇〇〇〇 二二〇〇〇
全月十一日		伏木丸	第三下甲板、中甲板患者居室、上甲板廁	一〇	一八	一五〇	二二〇〇〇〇 八〇〇
全月十二日		鹿兒島丸	中甲板患者居室一ヶ所	五	九	四〇	四五〇〇〇〇
全月十四日		須廣丸	前部中甲板、后部中甲板、廁三ヶ所	六五	一九	二〇〇	四五〇〇〇〇 九〇〇
全月十六日		伏木丸	ビルシ腔全部		一九	三〇	一七〇〇〇〇
全月十九日		土佐丸	上甲板隔離室、第一中甲板、第二中甲板、便所四ヶ所、水火夫室	二四	一九	一〇	一六〇〇〇〇 三〇〇
全		豊橋丸	第二中甲板隔離室、第四中甲板患者居室	一〇	一〇	四〇	七〇〇〇〇〇 一五〇
全		和泉丸	船尾上甲板人夫室	四	一六	四〇	四〇〇〇〇〇
全月廿日		阿蘇山丸	ビルシ腔全部		一四	四五	三四〇〇〇〇

十一月廿一日	佐倉丸	前部中甲板、廷卅枚帆五枚	一五	一四	〇	有炭酸 生石灰	10000000
全	膽振丸	水櫃壹個		一一	200	全	10000000
全 廿一日	土佐丸	第六中甲板、后部上甲板、厠一ヶ所	五二	一九	200	全	30000000
全 廿二日	佐倉丸	前部水タンク七十噸入	三五	一三	500	全	11000000
全 廿三日	新發田丸	船尾船員室、上甲板隔離室	三	一四	300	全	50000000
全	松山丸	后部中甲板、上等室	四七	一五	200	全	22000000
全 廿五日	彦山丸	第四中甲板	一三	一六	300	全	60000000
全	姫路丸	前部中甲板患者居室、后部中甲板隔離室	四二	一六	100	全	11000000
全 廿六日	三河丸	上甲板隔離室、中甲板患者居室	五	一三	一五	全	40000000
全 廿七日	兵庫丸	中甲板患者居室	三〇	一五	300	全	10000000
全 廿八日	台灣丸	上甲板隔離室	二	六	200	全	21000000
全 廿九日	威海丸	ビルジ腔全部		六	200	全	9000000
全 全日	愛國丸	ビルジ腔全部		一六	50	全	31000000
十二月八日	空知丸	中甲板患者居室	五	一三	200	全	40000000

全 十日	威海丸	患者隔離室	一〇	一〇	100	全	40000000
全 十二日	須廣丸	中甲板全部、水火夫室	一六一	二四	1300	全	33000000
全 十六日	酒田丸	上甲板隔離室	二	一三	300	全	50000000
計	貳拾九隻		七八五	四三三	三三三五	全	320105000

(解備船舶)

十一月卅日	三河丸	第一中甲板、水火夫室、炊事場、船員室、厠	八二	一六	五〇	生炭酸 生石灰	10000000
十二月十一日	空知丸	全中甲板、下甲板、水火夫室、上甲板、炊事場、厠、中甲板人夫室	二二六	二二	1300	全	12000000
十二月十二日	威海丸	中甲板全部、下甲板全部、厠、炊事場、全ビルジ	三七九	四二	六〇五	全	41000000
十二月十三日	高砂丸	第一中甲板、第二中甲板、全下甲板、厠三ヶ所、炊事場	一六五	一五	1400	全	22000000
十二月十五日	大連丸	前部第一中甲板、第二中甲板、全后、后部第一中甲板、全第一中甲板、全第二中甲板、水火夫室、厠、炊事場	三三一	一七	200	全	41000000
十二月十六日	薩廣丸	中船艙、下艙、中甲板客室、水火夫室、廊下、厠	二二六	一五	1100	全	24000000
十二月十七日	和歌浦丸	第一中甲板、第二第三第四中甲板、水火夫室、后部甲板、厠、船員室	二七六	一四	100	全	19000000
十二月二十日	大洋丸	中甲板、水火夫室、厠、炊事場	一三七	二七	100	全	13000000
全	土佐丸	全中甲板、船尾船員室、船首全、厠	二六七	二八	115	全	40000000



十二月卅一日	鹿兒島丸	全ビルジ腔全部				一九	一〇〇	生石炭酸 二一〇,〇〇〇 四五七
全月卅一日	伏木丸	全ビルジ腔全部				一九	二〇〇	全 三〇七
一月一日	神祐丸	隔離室、中甲板				七	一三〇	全 一〇,〇〇〇
全月三日	肥後丸	全ビルジ腔全部				八	一〇〇	全 二七
全月四日	筑紫丸	上甲板、中甲板、厠				一五	一〇〇	全 一〇,〇〇〇
計	拾四隻					七二	二,三〇〇	全 二,三〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
合計	四拾三隻					三〇九六	六八七	全 六,七〇〇,〇〇〇 八七七七

備考

本表中ビルジ腔ノ坪數ヲ記セサルハ要スルニビルジ腔ハ半管狀ノ空洞ニシテ一定セサルニ由ル  
 三河丸以下十四隻ハ陸軍運漕船解備ニ際シ患者ノ有無ニ拘ハラズ消毒ヲ施行セシモノナリ

消毒藥消費量一覽表

區分	種類	員數	坪數	石炭酸消費量	石灰消費量
船	船	四三	三、〇九六坪	六〇八〇、九〇〇瓦	六四〇七
水	槽	二		三〇、四五〇〇瓦	
ビルジ腔		一一		五五九、七〇〇瓦	二三七七
所内各舎及 頭、下水等				六六六九七、七五〇〇瓦	四、〇〇〇七
合計			三、〇九六坪	六六六九七、七五〇〇瓦	四、八七七七

備考

ビルジ腔ノ坪數ハ半管狀ノ空洞ニシテ一定セサルニ由リ坪數ヲ記セス解船所内各舎及頭下水等モ別ニ坪數ヲ算セス  
 本表外ニ藥物消毒科ニ於テ物品消毒ノ爲メ渡シタルハ五%石炭酸水三百七十五万瓦ナリ



殘留在庫藥品

藥名	數	量
純石炭酸殘留高	壹千七百十三磅貳百五拾瓦	
5% 石炭酸水	四百廿三萬七千瓦	
昇汞	九十磅	
昇汞水	二十一萬五千瓦	
生石灰	四千百九十三磅	
硫酸	二十六磅半	
硫酸石炭酸水	十七萬六千八百五十瓦	

船舶水質檢查成績

船名	飲入料地水	水質檢	試驗	成績	摘要
松山丸	吳	十一月三日	無	有	船底腔全部消毒
新發田丸	神	同	全	無	全
名古屋丸	吳	同月四日	全	無	害
須廣丸	字	同	全	無	害
越後丸	吳	同	全	無	害
遠江丸	同	同	全	無	害
釜山丸	同	同	全	無	船底水ナシ
宗谷丸	同	同	全	無	船底水ナシ
台灣丸	同	同	全	無	全
住江丸	同	同	全	無	全
新瀉丸	同	同月六日	全	無	害
山口丸	同	同	全	無	害

和泉丸	土佐丸	薩摩丸	阿蘇山丸	越後丸	肥後丸	須磨丸	神州丸	大洋丸	鹿兒島丸	伏木丸	臺灣丸	大連丸	南越丸
同	同	同	同	吳	旅	同	同	吳	香	吳	仁	同	同
					順				港		川		
同月廿一日	同	同	同	同月廿一日	同月十六日	同	同	同	同月十四日	同月十三日	同	同	同月十一日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	無	有	全	全	無	有	全	無	有	全	全	全
		害	害			害	害		害	害			
		毒	船底腔全部消			毒	船底腔全部消		毒	船底腔全部消			

日之出丸	中越丸	熊本丸	熊本丸	橫濱丸	威海丸	海城丸	大和丸	朝貌丸	有磯浦丸	日ノ丸	仁川丸	小倉丸	土佐丸	北辰丸
同	吳	上海混合	長崎、大連、吳	同	同	同	同	同	同	同	同	同	吳	吳
														神戶
同月九日	同	同月八日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十一月六日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	無
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	無	有
														害
														害
														毒
														船底腔全部消



須磨丸	威海丸	小樽丸	小倉丸	勢徳丸	新發田丸	空知丸	和歌浦丸	鹿兒島丸	大和丸	名古屋丸	新瀉丸	海城丸	有明丸
同	同	宇	打	基	同	同	同	同	同	宇	大	同	宇
		品	狗	隆						品	樽		品
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十四日	同月十三日				同月十二日	同月十七日				九日			七日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
無	有	全	無	有	全	無	有	全	全	無	全	無	全
害	害		害	害	害	害	害	害	害	害	害	害	害
毒	船底腔全部消	船底水ナシ			毒	船底腔全部消		毒	船底腔全部消			船底水ナシ	

榮城丸	釜山丸	高砂丸	住ノ江丸	天津丸	筑紫丸	遠江丸	台灣丸	京都丸	愛國丸	日ノ丸	金州丸	仁川丸	神祐丸
基	同	吳	仁	上	同	同	同	同	吳	打	香	吳	旅
隆			川	海						狗	港		順
同	同	同	同	十二月一日	同	同	同	同	同	同	同	同	十一月三十日
三日	二月二日							同月卅日	同月二十九日				
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	無
全	全	全	全	全	無	全	全	無	有	全	全	全	無
					害	害		害	害				害
									毒	船底腔全部消			



肥後丸	信濃川丸	金州丸	尾張丸	新瀉丸	伏木丸	小倉丸	新發田丸	佐倉丸	勝山丸	榮城丸	名古屋丸	住ノ江丸	頼朝丸
仁連川	大連	吳	同	同	同	同	同	宇	基	同	宇	族	同
川	灣							品	隆		品	順	
同	同	一月二日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三日								同月卅一日		同月廿八日			
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
無		全	全	全	全	全	無	有	全	全	全	全	全
害							害	害					
		船底水ナシ					毒	船底腔全部消					

玉姫丸	仁川丸	日ノ出丸	敦賀丸	海城丸	小樽丸	天津丸	姫路丸	兵庫丸	仙臺丸	釜山丸	彦山丸	陸奥丸	日ノ丸
同	同	宇	仁	同	同	同	同	宇	基	同	宇	基	宇
		品	川					品	隆		品	隆	品
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二月廿三日
	廿七日		同月廿六日		同月廿五日						二十四日		
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	無
全	全	全	全	全	全	無	全	全	全	全	全	全	無
						害							害
							船底水ナシ						

計	熊本丸	攝州丸	山口丸	正義丸	播磨丸	旅順丸
	基隆	大連灣	吳大連灣	威海衛	吳威海衛	吳威海衛
	同	同	同	同	同	一月三日
	十日	九日	八日	全	全	無
	全	全	全	全	全	無
	全	全	無	全	無	無
			害			害
					船底水ナシ	

備考

一本検査ハ船舶入港毎ニ各船ノ飲料水及船底潜水ヲ採取シテ之ヲ行ヒタルモノニシテ廿八年十一月四日ヨリ廿九年一月十日ニ至ル間ニ試験ヲ行ヒタルハ百五十八隻ナリ内細菌ヲ認メタルモノ十五隻ニシテ即チ九一五「プロセント」ナリ一検査方法ハ滅菌硝子壺ニ檢水一律的兒ヲ採リ之ニ「ペプトン」二%食鹽〇.五%ヲ加ヘ攝氏三十七度乃至三十八度ノ孵籠中ニ入レ十時乃至十二時間ノ後チ平板培養ヲナシ更ニ攝氏二十度ノ孵籠中ニ入レ八時乃至十二時間ノ後チ集落検査

懸滴検査及染色標本検査ヲナシ虎列刺菌ナルヤ否ヲ決定シ猶ホ疑似ニ涉ル片ハ更ニ「ニトロオホ」反應「ウワイルキ」反應ニテ之ヲ確定セリ

検査主任 陸軍二等軍醫 野口 詮太郎  
同 陸軍三等軍醫 北 島 庚 吉

停留舎

一 停留舎ハ事務所ト診断所トヲ設ケ事務所ハ停留人ノ入退諸給養物品預リ及之レニ伴フ事務ヲ掌リ診断所ハ停留人之診断及衛生上ニ關スル事務ヲ掌ル其他停留舎監視トシテ下士兵卒ヲ配属セシメ又診断所ニ避病院ヨリ調劑手一名及藥局ノ一部ヲ派遣セシム其職員左ノ如シ(分遣兵ノ診断及醫務ハ當診断所ニ於テ兼掌セリ)

事務所

主任 陸軍歩兵大尉 樋 山 尙



步兵第廿二聯隊	陸軍步兵二等軍曹	大野剛
步兵第十一聯隊	陸軍省雇員	阿坐上濶作
	臨時備	加賀美五百二
步兵第廿一聯隊	陸軍步兵上等兵	丸茂種吉
步兵第十一聯隊	陸軍步兵一等卒	原友吉
步兵第十二聯隊		小野伊八郎
步兵第十一聯隊		藤田卯三郎
步兵第廿一聯隊		小畑繁太郎
		笹井福次郎
		飯塚乙之助
		高橋善吉
步兵第十二聯隊		濱野利吉

診斷所

全	全	全	全	步兵第廿二聯隊	常用人夫	九名
山本石造	英乙次	三谷安平	畑中熊太郎			
主任	陸軍一等軍醫	久具周六	陸軍二等看護長			
	陸軍二等看護長	香山初之進	陸軍三等看護長			
	陸軍省雇員	波多賢一	陸軍省雇員			
	青柳禎太郎	岩山幸太郎	陸軍看病人			
	村上雜一	御崎教一				
	佐々木忠策					

- 全 萱原利吉
- 全 近山盛雄
- 全 川手幸一
- 全 森田寅三郎
- 全 世良五郎
- 全 宗像昇一
- 全 藤直美實
- 臨時備看病人 長谷川房吉
- 全 藤城直一
- 全 近森正辰

一明治廿八年十一月以降停留セシ人員七百五拾七人内百廿四人ハ臨時陸軍檢疫部ノ業務中即チ十月下旬ニ入舎シ十一月ニ殘留セシ人員ナリ而ノ停留人中傳染病ノ發生ハ赤痢一名ト腸窒扶斯一名ノミナリ甲ハ十一月四日乙ハ同月廿八日共ニ避病院へ送り其他脚氣壹名麻刺里亞貳名アリシモ此等ハ既ニ臺灣ニ於テ發病シ

停留中初メテ受診セシモノニ十一月三日全廿二日全廿四日ニ宇品患者集合所ニ轉送セリ

一停留人中傳染病ヲ發シタル片ハ患者ヲ避病院ニ送ルト同時ニ之レト同室セシ者ハ入浴セシメ被服ヲ消毒シテ他ノ宿舍ニ轉移セシメ他舎ト隔離シ停留時日ヲ更ニ延長シ全然後發ノ徴ナキニ至ツテ解停ス其患者ノ發生セシ宿舍及關係物品ノ消毒ヲ行フニ室内ハ〇、一%昇汞水若クハ五%石炭酸水ヲ灌漑シ或ハ濕拭シ一週日以上空室トナシ通氣セシメ又病毒汚染ノ被服寢具其他總テ藥物及熱瀉消毒ヲ施シ難キ物品等ハ燒却ニ附セリ

一停留人ノ食物ハ糧食委員ノ調査ヲ經タル献立表ニ由リ調理セシメ主任醫官毎回實物ヲ檢シテ之ヲ與ヘ食器及魚菜ノ洗滌ニハ煮沸セシ滅菌水ヲ用ヒシメタリ食物ノ分量ハ一飯二合ノ精米ト副食物トシテハ毎回二菜以上ヲ給スルヲ以テ取テ粗食又ハ分量之不足等ヲ訴フル者ナク久シク本土ヲ離レ戰地ノ粗食ニ慣レタル口腹ナルガ故ニ停留中食膳ノ美味ヲ喜ハサル者ナシ其他紙煙草等ハ各人ニ支給シ被服ハ綿入病衣ニ浴衣ヲ添ヘ寢具ハ布団四枚ノ割合ヲ以テ給與シ晝夜一室毎

ニ大火跡ヲ備フルヲ以テ宿舍ノ構造組織ナルニモ拘ハラス敢テ防寒ニ不足ヲ訴ヘシモノナシ

宿舍ノ清潔法ハ監視兵ト掃除人夫ヲ終日各舎ヲ廻ハリ室ノ内外ヲ掃除セシメ

厠間ハ朝夕二回汚物ヲ汲ミ取り毎回看病人ヲシテ消毒ヲ行ハシム

停留舎ノ敷地ハ一般低地ニシテ満潮時ニ在テハ海面ヨリ低キヲ殆ント尺餘ナリ

故ニ水壓之爲メ地盤ノ所々ニ自然ノ噴水孔ヲ生シテ海水ノ床下ニ溢出スルヲアリ殊ニ客年七月ノ暴風雨ニ際シ海岸ノ堤防破壊シタル后ハ一層甚シカリシガ爾

來堤防ノ復舊工事成リ停留舎内外ノ地盤ヲ堆積セシト二尺ノ高サニ達セリ於是

満潮時ト雖トモ海水ノ溢出スルコトナキニ至ルモ其堆積セシ土壤ハ外部ハ建物

ノ周圍ヨリ内部ハ床板ヲ取り除キテ床下ヲ埋没セルヲ以テ從來ノ歩床ハ敷地ニ

平等トナリ毫モ床下ノ間隙ナク直接ニ板ヲ地上ニ敷設セルト同シク衛生上居住

ニ適セサルニ至レリ然レトモ十一月以降ノ檢疫ニ在テハ傳染患者少ク隨テ停留

人員モ亦少數ナリシヲ以テ樓上ノ宿舍ノミニシテ充分ナリシモ自今再ヒ開設ノ

時ニ至リ多數ノ停留ヲ要スル場合ニ在テハ到底現在ノ宿舍ヲ以テ其用ヲ充タス

ヲ得サルベシ



下旬ニ入港停留シ官制改革后即チ同年十一月以后ニ殘リ解停シタル者ナリ

自明治廿八年十一月十一日分遣隊患者表  
至全廿九年一月十日

器食消	病	呼吸器			病	染	傳	火	傷外的械器			傷
		計	肺、肋膜病	管、氣管支病					計	其	靴	
胃腸病	口、咽腔、胃管	計	鼻、咽喉、氣	計	其	麻拉里亞	傷	計	他	傷	(病)類	
	一						一				舊患	
六		五	一	四	六	一	五	一	三	二	新患	
六	一	五	一	四	六	一	五	二	三	二	計	
四六	二	二〇	七	一三	二〇	一	一九	三	一一	九	日施療	
四	一	四		四	五		五	一	三	二	治癒	
											死亡	
		一	一		一	一					轉送	
											事故	
二								一			後遺	